

# SCHEDULE

## 東京都写真美術館展覧会スケジュール

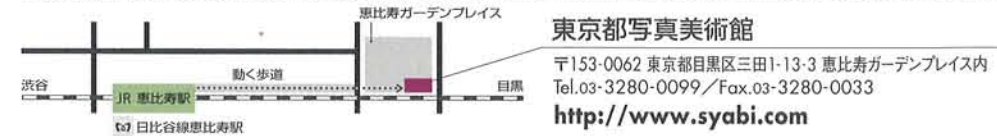
2005	3F展示室	2F展示室	B1F映像展示室	1Fホール
4	 開館10周年特別企画展 「写真はものを見方を どのように変えてきたか」 第1部～誕生～ 4月2日(土)～5月22日(日)	小林伸一郎写真展 BUILDING THE CHANEL LUMIÈRE TOWER 3月12日(土)～4月17日(日)	「Ten Views - スペイン現代写真家10人展」 3月19日(土)～4月24日(日)	天上草原 3月12日(土)～4月22日(金)
5	 開館10周年特別企画展 「写真はものを見方を どのように変えてきたか」 第1部～誕生～ 4月2日(土)～5月22日(日)	 生誕100年記念 ナチュラリスト・ 田淵行男の世界 4月23日(土)～6月12日(日)	 開館10周年特別企画映像展 超(メタ)ヴィジュアルー 映像・知覚の未来学 Visualize - The history and the futurescape of visual media 第1部: 4月30日(土)～6月5日(日) 第2部: 6月7日(火)～7月10日(日)	 村の写真集 4月23日(土)～5月27日(金)
6	 開館10周年特別企画展 「写真はものを見方を どのように変えてきたか」 第2部～創造～ 5月28日(土)～7月18日(月・祝)	 世界報道写真展2005 6月18日(土)～ 7月31日(日)	 世界文化遺産写真展 「アンコールと生きる」 ～クメール文明の今 写真家・BAKU斎藤 7月16日(土)～8月14日(日)	 チャレンジ・キッズ 5月28日(土)～7月8日(金)
7	 開館10周年特別企画展 「写真はものを見方を どのように変えてきたか」 第3部～再生～ 7月23日(土)～9月11日(日)	 ～ボンビド～センターコレクション～ ブラッサイのバリ、 バリのブラッサイ展(仮称) 8月6日(土)～9月25日(日)	 日本写真文化協会展 「The Pride of Japan」 8月20日(土)～9月4日(日)	夏休み特別企画 ・あした元気にな～れ! ・F3 film collection + 7月2日(土)～8月25日(木)
8	 開館10周年特別企画展 「写真はものを見方を どのように変えてきたか」 第3部～再生～ 7月23日(土)～9月11日(日)	 コンテンポラリーダンス展(仮称) 10月1日(土)～11月13日(日)	 日本写真作家協会展 9月10日(土)～9月25日(日)	※このほかについての 詳しい情報は ホームページをご覧ください。
9	 開館10周年特別企画展 「写真はものを見方を どのように変えてきたか」 第4部～混沌～ 9月17日(土)～11月6日(日)			※スケジュール・展覧会タイト ルは予告なく変更される場合 があります。 最新のスケジュール詳細は ホームページをご覧ください。

**ご利用案内**

- 休館日：毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合、その翌日)、5/2,7/25,8/1は開館
- 開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで)入館は閉館の30分前まで

**全館セット割引  
チケットの販売**

お得な割引料金で展覧会をご覧いただけるセット割引チケットを販売しております。  
詳しくはチケット売り場でおたずねください。



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則的に消費税込みの価格です。  
東京都写真美術館ニュース「アイズ05」46号 ●発行日:2005年4月18日/企画・編集:東京都写真美術館学芸課 普及係 ●印刷・製本:  
JTB印刷株式会社 ●発行:財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2005 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE

**eyes** 2005 Vol.46  
東京都写真美術館ニュース「アイズ」

46



東京都写真美術館では現在開館10周年を記念して「写真はものの見方をどのように変えてきたか」展を開催中です。今回は、第2部「創造」と第3部「再生」にスポットをあててご紹介いたします。

開館10周年記念特別企画 東京都写真美術館コレクション展

TOPICS  
eyes Vol.46

## 「写真はものの見方を どのように変えてきたか」

### 第2部「創造」 CREATION

今からおよそ160年前、「記憶をもった鏡」と呼ばれ、人々に驚きを持って迎えられた写真は、記録やポートレートとして主に用いられていました。しかし、19世紀後半になると、アマチュア写真家たちを中心に写真を絵画と同じように芸術的な位置づけをしようとする動きが見られ始めました。絵画に表現の範を求めたビクトリアリズム(絵画主義)と呼ばれる動向です。かれらは写真を貼り合わせることに始まり、さらに視覚で捉えた現実をより理想化した形で表現するために、わざとピント

をはずしたソフトフォーカスを多用し「絵画」のイメージを追求しました。初期の代表的な作品としてはヘンリー・ピーチ・ロビンソンが制作した合成印画が有名です。それまでの芸術写真に飽き足らなかったイギリスの王立写真協会のメンバーの中からは、やがて「真実、美、想像」を表す三つの環をシンボルとした「リンクト・リング」を結成し、この活動は世界中に広がりました。当時、日本でも欧米で展開したビクトリアリズム運動から大きな影響を受け、洋画だけではなく、日本画や版画の

②

影響を受けた作品が流行しました。やがて、それまでの芸術写真家たちが手がけていた作画的な写真を否定し、「自然主義」を掲げる作家が登場しました。それがイギリスのピーター・ヘンリー・エマーソンです。彼は「芸術とは人間の目に映る自然の姿をなぞることに意義がある」とし、「あるがままの写真であるべき」と主張しました。

一方、アメリカではフランスやイギリスといったヨーロッパの動きとは異なったビクトリアリズムの動きが展開しました。その代表的な活動はニューヨークを中心にしたアルフレッド・スティーグリッツらが結成したフォト・セセッションのグループでした。写真の画像にあからさまに手を加えていくことを嫌ったかれらの活動は、ストレート写真が中心となっていく次の世代の萌芽となりました。1920年後半になると、写真は社会主義国家の誕生といった社会状況の変化や都市化の問題、一方で思想や哲学などによって写真本来の機能や役割を捉え直し、近代的な写真表現の追及が始まります。またライカA型の登場によってカメラは目の延長となり、その場で見たものをすぐに撮影することが簡単になりました。そのため、街や人びとを捉えたストレート写真やドキュメンタリースタイルの写真が次々と世に送り出されるようになったのです。日本でも木村伊兵衛が庶民

の日常の暮らしを写した「那覇の市場」など、写真というカテゴリーの中で、ストレート写真が定着していきました。

また、技術や科学の発達、カメラのレンズが人の眼ではなく、機械の目であることを人々に否応なしに意識させてゆきました。クローズアップや赤外線写真、ストロボが使えるようになり、人間の目では見ることが出来なかった映像を、写真を通じて見ることが出来るようになったのです。

その後、第一次世界大戦後、総合芸術のユートピアを目指す「バウハウス」の開校によって、写真はメッセージを明確に伝える道具としてグラフィックデザインなど商業美術にも大きな影響を与えました。また、この時代には視覚芸術における前衛運動を積極的に取り込んだ写真が多く、人間の心の中に潜む無意識や夢、欲望などに着目した幻想的な世界を描くシュルレアリスムの時代でもありました。教育的で実験的なこのような活動は、コラージュやマン・レイのソラリゼーションやフランツ・ローのネガ・フォトなど多彩の形で表現されました。

第2部では写真がその独自の「芸術」と「表現」をどのように発展させていったのか、19世紀後半から1930年代までの写真表現の変遷をたどります。



表紙 マン・レイ「ガラスの涙」1932年

\*1 木村伊兵衛「那覇の市場」1935年

\*2 ヘンリー・ピーチ・ロビンソン「夜明けと日没」1885年

\*3 アルフレッド・スティーグリッツ「三等船室」1907年

\*4 フランツ・ロー「鏡の前の女」撮影年不詳

※作品はすべて東京都写真美術館蔵

## 第3部「再生」 RECONSTRUCTION

◎

戦争が写真に与えた影響力は計り知れません。1930年代前半に成立した報道写真は、戦火が激しくなるに従い軍国主義の波に飲み込まれていきました。国策のプロパガンダに協力しながらも、写真家たちは自分が写真家として生きるべき道を模索します。「敗戦の日の太陽、高田」を撮った写真家・濱谷浩も戦争によって人生が大きく変わった作家のひとりです。報道写真家としていち早く活躍をはじめた濱谷は、戦時中、自らが撮影した写真が軍部に都合よく使われることに疑問を抱き、新潟県高田に居を移し、日本の生活の古典と出会います。そして終戦のときの心情をこう述べています。「東京での写真を復活しようと思えば、暗室は焼け残っていたし、いち早く立ち上げられる条件であった。狂気の相を撮ることも写真家としてやらなければならない仕事だとも思った。だが私は、今度こそ時代に背を向けてやろうと東京脱出を図り、雪深い高田の寺の裏二階に蟄居することに決めた。(中略)私は、戦中戦後にもっとも多い犠牲を強いられてきた大正人間の一人として、さまざまな思いの渦巻くなかで二十五年前を回想した」(『潜像残像—写真家の体験的回想』より) 第3部「再生」では、戦中に報道写真家としてスタートした林忠彦、50年代のヌード写真に一時代を築いた中村立行、そして戦後の日本を「占領」というキーワードでとらえた東松照明など、大戦をはさんだ1930年から60年代の写真家の活動を通して、戦争が彼らに与え、そして奪ったものは何だったのかを検証していきます。



\*5



\*6



\*7

\*8

\*5 東松照明 シリーズ「チューインガムとチョコレート」より 1959年  
 \*6 濱谷 浩 シリーズ「雪国—桑取谷—」より「鳥追い」 1940年  
 \*7 中村立行 「ヌード3」 1956年  
 \*8 林 忠彦 シリーズ「カストリ時代」より「復員(品川駅)」 1946年  
 ※作品はすべて東京都写真美術館蔵

開館10周年記念特別企画展

## 「写真はものの見方をどのように変えてきたか」

第1部「誕生」 4月2日(土)～5月22日(日) 第2部「創造」 5月28日(土)～7月18日(月/祝)

第3部「再生」 7月23日(土)～9月11日(日) 第4部「混沌」 9月17日(土)～11月6日(日)

会場：3階展示室

◎主催：東京都／東京都写真美術館 ○協賛：フォト・ギャラリー・インターナショナル ○開館10周年特別協賛：キヤノン株式会社／サッポロホールディングス株式会社／株式会社資生堂／株式会社写真弘社／ソニー株式会社／大日本印刷株式会社／凸版印刷株式会社／株式会社日本発色／富士フイルムイメージング株式会社／株式会社リコー(50音順)

◎料金：一般 500(400)円／学生 400(320)円／中高生・65歳以上 250(200)円

※( )は20名以上の団体料金 ※東京都写真美術館友の会会員は無料

5月22日(日)まで発売中!

第1部～4部共通チケット 一般1,300円 学生1,000円 中高生・65歳以上650円

当館1階・2階受付カウンターにてお求めください

## Lecture & talk / workshop

展覧会関連レクチャー&トークとワークショップ

展覧会をより一層お楽しみ頂くために、さまざまな催しものをご用意しました。

■フロアレクチャー(入場料のみ・申込み不要)...

日時：会期中 第2、第4金曜日14:00～ ※3階展示室前ロビーにお集まりください

■カフェ+ギャラリートーク(有料・事前申込み制)...

日時：第1部「誕生」... 5月21日(土) 第2部「創造」... 6月25日(土)・7月16日(土) 各日とも17:30～

■展覧会関連ワークショップ(有料・事前申込み制)...

第1部「誕生」...「やさしい古典技法(アルビューメン・プリント)-卵をつかって写真をつくろう!」

A) 4月29日(金)・30日(土)、B) 5月7日(土)・8日(日) ※各コース10:30～16:00 ※対象：小学3年生～6年生

第2部「創造」...「古典技法(プロムオイル)」

A) 7月2日(土)、B) 7月3日(日) ※各コース10:30～17:00

※詳細は館内チラシおよびホームページでご確認ください。

◎お問い合わせ：東京都写真美術館 03-3280-0099

5/22まで  
開催中

### 第1部「誕生」

ORIGINS

誕生—発明された第三の視覚  
渡海—往来する「術」「像」

1939年に発明された第三の視覚「写真」。

欧米での技術の発達や、日本と世界を行き交うイメージを

19世紀末までの作品で探検します。

世界初の写真集「自然の鉛筆」

全6冊を一挙公開中!

「自然の鉛筆」より「積み藁」、

「The Pencil of Nature」[the haystack]

ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット、1844-1846年



2F

2階展示室  
Exhibition Gallery友の会  
割引三越カード  
割引アトレカード  
割引

2005年4月23日(土) → 6月12日(日)

## 生誕100年記念 ナチュラリスト・田淵行男の世界

Natural Enchantments: The World of Tabuchi Yukio

○一般 700(560)円 ○学生 600(480)円  
○中高生・65歳以上 500(400)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、  
上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料  
※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都写真美術館/  
田淵行男生誕百年記念事業実施委員会/  
読売新聞東京本社/美術館連絡協議会  
○助成：(財)UFJ信託文化財団  
○協賛：ニコン/ニコンカメラ販売/SHISEIDO/  
富士フイルムイメージング/花王株式会社  
○協力：田淵行男記念館/光村印刷/山と溪谷社/  
恵比寿ガーデンプレイス

(社)企業メセナ協議会認定事業

HP 詳細ホームページ : <http://www.syabi.com/schedule/schedule.html>

ネイチャーフォトの先駆者であると同時に、山の自然をリアルに直視した作風で、わが国の山岳写真に一時代を築いた写真家・田淵行男。当館では、その生誕100年を記念して、「ナチュラリスト・田淵行男の世界」展を開催します。

田淵行男は1905年、大山を望む鳥取県黒坂村(現・日野町)に生まれ、自然に恵まれた環境に育ちました。大学で博物学を修めたのち、教員としても自然の中で学ぶことを

実践しながら本格的に山岳写真を撮り始め、1945年、長野県南安曇郡西穂高村牧(現・穂高町牧)に疎開。その後は終生、安曇野の地に定住し、「自然から読み取り学ぶ知識がもっとも正しい」という独自の理論のもと、壮大な北アルプスと緑豊かな安曇野で高山蝶をはじめとする昆虫生態研究や雪形研究などに生涯を捧げ、幅広い業績を残しました。

自然を愛し、小さな生き物たちの生命の輝きをいつくしみ続けた田淵行男。本展では彼の全仕事を紹介するとともに、愛用の写真機材、登山道具、写真集の絵コンテなど約200点を展示、繊細な感性と自然への畏敬にあふれる田淵行男の写真世界を探ります。



\*1



\*2

\*1 左より大滝山、蝶ヶ岳、常念岳、横通岳 豊科町郊外より 1965年頃  
\*2 結ばれた雌雄 ヒメギフチョウ 1953-55年頃

写真は全て田淵行男記念館蔵(C) Tabuchi Hotaka

2F

2階展示室  
Exhibition Gallery友の会  
割引三越カード  
割引アトレカード  
割引

2005年8月6日(土) → 9月25日(日)

## ポンピドゥーセンター・コレクション ブラッサイのパリ、パリのブラッサイ展(仮称)

○一般 1,000(800)円 ○学生 900(720)円  
○中高生・65歳以上 800(640)円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料  
※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：東京都写真美術館/朝日新聞社  
○後援：フランス大使館  
○協賛：エールフランス航空  
○協力：ポンピドゥーセンター

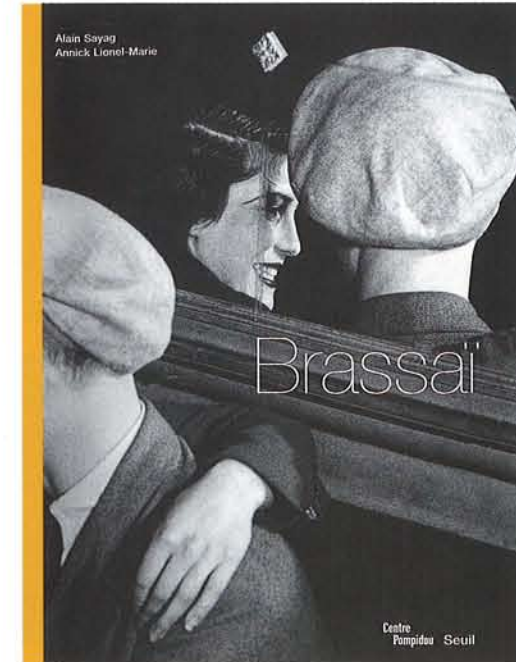
AIR FRANCE

HP 詳細ホームページ : <http://www.syabi.com/schedule/schedule.html>

パリのポンピドゥーセンター(フランス国立近代美術館産業創造センター/ジョルジュ・ポンピドゥー国立芸術文化センター)は、その超近代的な建築でパリ観光の名所のひとつとされていますが、膨大な近代・現代美術のコレクションによる秀逸な展覧会を開催する美術館としても知られています。なかでも、フランスを代表する写真家ブラッサイの写真、素描、彫塑からなるコレクションは世界有数の作品数を誇り、2000年に開催された「ブラッサイ」展は国内外で大きな成功を収めました。

<ブラッサイ>ことギュラ・ハラスは、1988年現ルーマニアのブラッ村に生まれ、のちにその名が転じて<ブラッサイ>と名乗るようになりました。画家を志した彼はハンガリーとドイツに学び、1924年ジャーナリストとしてパリに渡ります。その後、アンドレ・ケルテスの手ほどきで写真を始め、夜更けの街や裏通りを練り歩きながらカフェやバーを巡り、猥雑でありながらも人情味あふれる1930年代初頭のパリを描き出しました。こうして、1933年に発表された写真集『夜のパリ』(序文ポール・モラン)は、各界から絶賛され、一躍脚光を浴びたのです。

今回、当館ではポンピドゥーセンターの企画協力を得た日本唯一の巡回展として代表作「夜のパリ」「昼のパリ」「落書き」シリーズをはじめ素描、彫塑作品を含む大規模なブラッサイの個展を開催いたします。展覧会にあわせて、ブラッサイの世界を探るべく、さまざまな催しも予定しております。詳細はホームページ等で随時ご紹介していきます。



\*1

\*1 2000年 ポンピドゥーセンターで開催された「ブラッサイ」展の公式カタログより

2F

2階展示室  
Exhibition Gallery

- ※入館券  
割引
- ※緑カード  
割引
- ※アレカード  
割引

▶▶ 2005年6月18日(土) → 7月31日(日)

## 世界報道写真展 WORLD PRESS PHOTO 2005

- 一般 700 (560) 円 ○学生 600 (480) 円
- 中高生・65歳以上 400 (320) 円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料  
※第3水曜日は65歳以上無料

- 主催：朝日新聞社/世界報道写真財団
- 共催：東京都写真美術館
- 後援：オランダ大使館/社団法人日本写真協会/  
社団法人日本写真家協会
- 協賛：キャノン株式会社/キャノン販売株式会社/TNT

HP 詳細ホームページ：http://www.syabi.com/schedule/schedule.html

毎年、世界中のプロカメラマンを対象にして開催される「世界報道写真コンテスト」。48回目を迎える今年、大賞作品となったのは、昨年末スマトラ沖を襲った地震による津波で親族を亡くし、悲しみあふれる女性の姿でした。過去最高となる4266人のカメラマンから、7万点近くの応募があった今回は、ほかにロシア・北オセチアのベスラン小学校包囲テロやブッシュ・アメリカ大統領の再選、イラク戦争など世界各地の現状を表した作品が選ばれました。東京都写真美術館ではこれら受賞作品を紹介する「世界報道写真展」を6月から開催します。世界中のフォトジャーナリストが危険を顧みず撮影した数々の瞬間…。その1点、1点が、私たちに様々な問題を投げかけています。

### ■ 2005年世界報道写真大賞

- \*1 アルコ・ダッタ (インド、ロイター)  
「スマトラ沖地震による津波で親族を亡くし嘆き悲しむ女性」©Arko Datta
- \*2 「カーステン・ペーター (ドイツ、ナショナル・ジオグラフィック誌) 「竜巻の内部」 ©Carsten Peter
- \*3 アダム・ナデル (アメリカ、ボラリス・イメージズ) 「ダルフルのボートレート」 ©Adam Nadel
- \*4 KOZYRE ユーリ・コズイレフ (ロシア、タイム紙)  
「ベスランの学校占拠事件」ロシア、北オセチア共和国 ©Yuri Kozyrev
- \*5 ボブ・マーティン (イギリス、スポーツ・イラストレイテッド誌)  
「アテネパラリンピック・競泳200m自由形」 ©Bob Martin
- \*6 クリストファー・モリス (アメリカ、VIIよりタイム誌へ)  
「ジョージ・W・ブッシュの再選キャンペーン」 ©Christopher Morris

お問い合わせ：朝日新聞社文化事業部「世界報道写真展」係 03-5540-7450



B1F

地下1階映像展示室  
Images & Technology Gallery

- > 友の会  
無料
- > 三越カード  
割引
- > アトレカード  
割引

≫ [前期] 2005年4月30日(土) → 6月5日(日) [後期] 6月7日(火) → 7月10日(日)

開館10周年特別企画映像展

# 超ビジュアル — 映像・知覚の未来学

Visualize - The history and the futurescape of visual media

○一般 500 (400) 円 ○学生 400 (320) 円 ○中高生・65歳以上 250 (200) 円

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料金  
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料  
※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

- 主催:東京都/東京都写真美術館 ○後援:文化庁
- 企画協力:株式会社NHKエンタープライズ
- 東京都写真美術館開館10周年特別協賛:キヤノン株式会社/サッポロホールディングス株式会社/株式会社資生堂/株式会社写真弘社/ソニー株式会社/大日本印刷株式会社/凸版印刷株式会社/株式会社日本発色/富士フィルムイメージング株式会社/株式会社リコー
- 協力:NHK放送技術研究所/九州大学大学院源田研究室/CG-ARTS協会(財団法人 画像情報教育振興協会)/毎日新聞社/NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]/白石コンテンポラリーアート/新潮社/日本ビューレット・パッカード株式会社/シリコンスタジオ株式会社/日本バイナリー株式会社/株式会社フレックスインターナショナル/株式会社イ・ケイ・ジャパン/クリエイティブクラスター/ほか Technology by Apple

HP 詳細ホームページ: <http://www.syabi.com/schedule/schedule.html>

高度な可視テクノロジーが日常となった現在、私たちに「見る／知る」という欲求が新たに加わり、時代とともにそれはより一層高まっています。

本展では、写真・映画前史に始まる4000点で構築された独自の映像装置コレクションを5つのカテゴリで総覧し、現代作品とともにひとつの超(メタ) ヴィジュアルな空間を作り出すを試みます。例えば、国内外アーティストによる現代作品の蓄積や現代美術に拡張する新たなプロジェクトと、その源である映像装置に繋がる「視覚への欲求」を体感する展示やワークショップを行います。その目的は新旧の視覚メディアを等距離に往来し、新たな表現・創造のインスピレーションを得ようというものです。会期をふたつのパートに分け、モーショングラフィックス、ネット作品、プロダクト、ミュージックビデオ、ゲームやエンターテインメントまでを対象に展開します。

開館10周年の節目に、科学と芸術の融合領域も含め常に変容する「映像メディア／メディア芸術」の新たな意味を探求します。ひろがる映像メディアの体験にどうぞ参加下さい。

■ 出品予定作品 (すべて参考図版 \*1、\*5以外すべて東京都写真美術館所蔵)

- \*1 名和晃平, PixCell 「Zebra」 (撮影:金子治夫)
- \*2 久里洋二「キネトスコープのフィルム」1994年/Yoji Kuri, Film for Kinetoscope
- \*3 アタナシウス・キルヒャー著「光と影のたいなる術」(第2版) 1671年
- \*4 河口 洋一郎「Artificial Life Metropolis-Cell」/Yoichiro Kawaguchi, Artificial Life Metropolis-Cell
- \*5 岩井俊雄「時間層Ⅱ」1985年 毎日新聞社蔵・東京都写真美術館寄託/Toshio Iwai, Time StratumⅡ
- \*6 福田美蘭「Camera Eye」1995年/Miran Fukuda, Camera Eye
- \*7 制作者不詳「各種の幻灯機」19世紀/Unknown artist, Magic Lantern



B1F

地下1階映像展示室  
Images & Technology Gallery

友の会  
割引

三越カード  
割引

アトレカード  
割引

2005年7月16日(土) → 8月14日(日)

## 世界文化遺産写真展『アンコールと生きる』 ～クメール文明の今 写真家・BAKU斉藤

○一般 1,000 (800) 円 ○学生 800 (600) 円  
○中高生・65歳以上 500 (400) 円

○主催：「アンコールと生きる」展実行委員会／朝日新聞社／  
東京都写真美術館

( )は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会、上記カード会員割引料全  
※小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料  
※第3水曜日は65歳以上無料

HP 詳細ホームページ : <http://www.syabi.com/schedule/schedule.html>



8世紀から15世紀にかけて、インドシナ半島に栄えたアンコール王朝は、ヒンドゥ教、仏教を背景にして宗教建築物をはじめとする独特の文化を形成しました。それが今日の「アンコール遺跡群」と呼ばれているものです。ユネスコは1992年に「アンコール遺跡群」を世界文化遺産に指定し、世界でもっとも緊急に修復保存をする遺跡としました。本展は、1994年より現在まで、消滅しつつある遺跡群を記録にとどめるため日本国政府アンコール遺跡救済チーム (JSA) に参加し、体系的な記録を撮影しつつづける写真家・BAKU斉藤の仕事を紹介し、強烈な自然の力と共存する遺跡群の現状、そしてそこに生きる人々の姿を描き出すものです。

\*1 北周盤門西尊顔 (アンコール遺跡郡タ・プロム僧院) © Baku Saito  
\*2 古典舞踊アサラの舞 (世界文化遺産・無形文化財) © Baku Saito

お問い合わせ：文化運動アパッショナート 03-3798-4071

ZOOM UP!  
写美

写美ホームページリニューアル!

www.syabi.com

## 図書館「検索サイト」がオープンしました!

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

4月、写真美術館のホームページ「syabi.com」が明るくなりリニューアルしました。同時に、待望の図書館「蔵書検索システム」がインターネットでご利用いただけるようになりました。このシステムでは図書館が誇る国内外の貴重な写真集をはじめ、数多くの写真・映像関係の蔵書をご自宅や会社などからいつでも調べることができます。いままでに比べ、グンと効率的に本を探すことができるようになりました。ぜひ図書館検索サイトをご利用下さい。

写真美術館図書館(4階) 開室時間/10:00~18:00 休室日/月曜日(祝日・振替休日の場合は翌日)  
※館外貸し出しはしていません。

### HOW TO USE

(検索の使い方)

- ① [www.syabi.com](http://www.syabi.com)へアクセス
- ② 左のメニューから写真美術館図書館(図書館検索サイト)をクリック
- ③ 図書館検索サイトTOPページ右上のメニューから検索START!
- ④ 図書名・著者名など検索に必要なワードを入力
- ⑤ 検索結果が一覧で表示されます!

1F ミュージアムショップ「ナディッフ バイテン」

NADIFF X IO

www.syabi.com/shop/shop.html

お問い合わせ:  
「ナディッフ バイテン」  
直通 03-3280-3279



### Book

#### 開館10周年記念関連本、 シリーズ第1弾

東京都写真美術館の貴重な収蔵作品が100点以上掲載された「写真の歴史入門 第1部 誕生」を好評発売中です。

「写真の歴史入門 第1部 誕生」  
新潮社刊 ¥1,470(税込み)

1・2F カフェ「シャンブル クレール〜明るい部屋〜」

chambre claire

www.syabi.com/cafe/cafe\_01.html

お問い合わせ:カフェ  
「シャンブル クレール」  
直通 03-5798-2218



¥200 (1個)

### Chocolate

人気のベルギーチョコレートはベルギー古都にあるブルージュ地方から空輸で取り寄せています。現地の手作り職人・ブラポールさんが作り上げたコクのある本格的な味わいは、ベルギービールやコーヒーとのハーモニーもまた絶妙。

1F

1階ホール

Hall Cinema information

- 友の会割引
- 三越カード割引
- アトレカード割引

東京都写真美術館で観る映画シリーズ

HP 詳細ホームページ: <http://www.syabi.com/schedule/schedule.html>

写真美術館で観る映画シリーズ Vol.16

村の写真集

舞台は雄大な徳島の大自然。一軒の古い写真屋の家族を通して、人と人の絆を描く感動の作品です。



徳島の山村で写真館を営む職人気質の父・研一と、そんな父に反発して東京でカメラマンの助手を務める息子・孝。そんなふたりが故郷の村と人を写真集に残す企画を引き受け、晩秋の紅葉路を巡り歩くことに。すれ違う父と子の関係がさまざまな人との出会いによって変化してくる頃、問題が起こって…。父子を演じるのは藤竜也と海東健。写真監督として立木義浩が参加し、研一が使うカメラをシナリオに沿ってイメージしアドバイスを行うほか、

劇中タイトルバックの写真や藤竜也が使用するカメラを提供しています。日本最大秘境ともいわれる徳島の自然と人々の温かさに支えられた癒しのスロームービーが家族の絆、故郷の優しさを教えてくれます。

- 上映スケジュール: 4月23日(土) - 5月27日(金)
- 休館日: 月曜日(休日の場合は翌日) ※5/2(月)・5/6(金)は開館
- 上映時間: 11:00/13:30/16:00/18:30
- 料金: 一般 1,800円/学生 1,500円/中学生以下・シニア 1,000円

詳細ホームページ <http://www.murasha.com/>

お問い合わせ: ワコー/03-3248-0747

写真美術館で観る映画シリーズ Vol.17



チャレンジ・キッズ

全国織りかた競技会(スベルバウンド)の決勝戦のため、それぞれ故郷の町からワシントンD.C.へ向かう子供たち8人。「少々知能に疑問のある子供にはスベルバウンドは有効かもしれない」と担任の先生から言われてやって来たテッド。農場で働き、全く英語が話せない父を持つアンジェラなど、民族・所得階層・宗教背景の全く異なる彼らをカメラが追う。2003年アカデミー最優秀長編ドキュメンタリー部門ノミネート作品。



- 上映スケジュール: 5月28日(土) - 7月1日(金)
- 休館日: 月曜日(休日の場合は翌日)
- 上映時間: 10:20/12:40/14:40/16:40/18:40
- 料金: 一般 1,800円/学生 1,500円/中学生以下・シニア 1,000円
- ※期間中ミニスベリング大会開催予定

詳細ホームページ <http://www.pan-dora.co.jp/challenge/>

お問い合わせ: バンドラ/03-3555-3987

夏休み特別企画

7月2日(土)~8月25日(木)

「うしろの正面だあれ」の続編として描かれた海老名香葉子さん原作の話題のアニメーション「あした元気になれ!」をモーニングショーで上映。午後は、日本の人気コミック「花より男子」を原作とする台湾のTVドラマ「流星花園」から飛び出した台湾の人気グループF4(エフフォー)。アジアを席卷するF4メンバー主演の映画3本+スペシャル企画を上映します。

あした元気になれ!  
~半分のさつまいも~

モーニングショー(10:15~)



F3 film collection +  
上映時間:  
12:30/14:40/16:50/19:00  
詳細はホームページにて(6月上旬頃)



休館日: 月曜日(休日の場合は翌日)

維持  
会  
員

Membership

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。

※詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.syabi.com/Membership.html>

特別維持会員

- キヤノン株式会社
- 株式会社資生堂
- 東京電力株式会社
- 凸版印刷株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社アサツーディ・ケイ
- 旭化成株式会社
- 朝日新聞社
- 朝日生命保険相互会社
- アサヒビール株式会社
- 朝日放送株式会社
- アップルコンピュータ株式会社
- 株式会社イトーヨーカ堂
- エスエス製薬株式会社
- 株式会社NHKエンタープライズ21
- NTTコミュニケーションズ株式会社
- 株式会社NTTドコモ
- NTT都市開発株式会社
- エルメスジャパン株式会社
- 株式会社大林組
- オムロン株式会社
- オリンパス株式会社
- 株式会社オンワード樞山
- 科研製薬株式会社
- カシオ計算機株式会社
- 鹿島建設株式会社
- 株式会社角川書店
- カトーレック株式会社
- カルピス株式会社
- キッコマン株式会社
- キヤノン販売株式会社
- 共同印刷株式会社
- 社団法人共同通信社
- 協和発酵工業株式会社

- キリンビール株式会社
- 株式会社講談社
- 株式会社光文社
- 株式会社コーセー
- コダック株式会社
- 株式会社コングレ
- 株式会社ザ・アール
- サッポロホールディングス株式会社
- 佐藤製薬株式会社
- 三共株式会社
- 産経新聞社
- サントリー株式会社
- ジェイティービー印刷株式会社
- 株式会社実業之日本社
- 清水建設株式会社
- 株式会社写真弘社
- シャネル株式会社
- 株式会社集英社
- 株式会社主婦と生活社
- 株式会社小学館
- 株式会社スタッフサービス・ホールディングス
- セイコー株式会社
- セイコーエプソン株式会社
- セントラル警備保障株式会社
- 全日本空輸株式会社
- ソニー株式会社
- 第一建築サービス株式会社
- 大成建設株式会社
- 大日本印刷株式会社
- 株式会社竹中工務店
- 株式会社タムロン
- 株式会社丹膏社

- 中外製薬株式会社
- 株式会社テー・オー・ダブリュー
- 株式会社テレビ東京
- 株式会社電通
- 東亜建設工業株式会社
- 東海旅客鉄道株式会社
- 東京ガス株式会社
- 東京急行電鉄株式会社
- 東京工芸大学
- 東京新聞・中日新聞社
- 東京総合写真専門学校
- 東京テアトル株式会社
- 株式会社東京ドーム
- 株式会社東芝
- 東宝株式会社
- 株式会社東北新社
- 株式会社徳間書店
- 図書印刷株式会社
- 戸田建設株式会社
- トヨタ自動車株式会社
- 株式会社ニコン
- 日外アソシエーツ株式会社
- 日産自動車株式会社
- 日本オラル株式会社
- 日本経済新聞社
- 日本興亜損害保険株式会社
- 社団法人日本広告写真家協会
- 社団法人日本写真家協会
- 日本写真芸術専門学校
- 日本写真作家協会
- 社団法人日本写真文化協会
- 日本信販株式会社
- 日本大学芸術学部
- 日本たばこ産業株式会社
- 日本テレビ放送網株式会社
- 日本ハム株式会社

- 日本ビルサービス株式会社
- 日本放送協会
- 日本油脂株式会社
- 日本リーバ株式会社
- 株式会社博報堂
- 株式会社バンダイ
- びあ株式会社
- 東日本旅客鉄道株式会社
- 株式会社ファーストリテイリング
- 株式会社ファンケル
- 富国生命保険相互会社
- 富士重工工業株式会社(スバル)
- 富士ゼロックス株式会社
- 株式会社フジテレビジョン
- 株式会社ブリヂストン
- 株式会社プリンスホテル
- 株式会社フレームマン
- 株式会社文藝春秋
- 株式会社ベネッセコーポレーション
- ペンタックス株式会社
- 株式会社ホテルオークラ
- 株式会社堀内カラー
- 本田技研工業株式会社
- 毎日新聞社
- 株式会社マガジンハウス
- 松下電器産業株式会社
- 丸善株式会社
- 三井倉庫株式会社
- 森ビル株式会社
- モルガン・スタンレー証券会社
- モンブラン ジャパン株式会社
- 横河電機株式会社
- 読売新聞社
- ライオン株式会社
- 株式会社ワコール
- (平成17年3月現在・五十音順)

友の会 Supporter

東京都写真美術館では、随時会員の募集をしています。写真美術館ニュースeyesの送付をはじめ、たくさんの特典、割引がございます。開館時間中(10:00~18:00)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員同伴者1名まで	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

○受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。  
○会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。  
※詳細は当美術館までお問合わせください。  
TEL:03-3280-0099